

国語科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：2024年11月20日（水）3限
対 象：3年5組（15名 習熟度別授業）
担 当：岩崎 公紀
科 目：古典探究
単 元：『無名抄』

学習活動：文章の現代語訳や文法、敬語表現については確認を終え、本授業では、俊恵は俊成の「タされば……」の歌について、どういう点を批判しているのかについて交流した。

導入：和歌の現代語訳の確認

展開：本文該当箇所を抜き出し、「腰の句」「いみじく言ひもてゆきて」の意味を正しくおさえられているか確認する。

終結：何もかも表現しすぎていて、第三句の「身にしみて」という言葉が、歌の眼目とするはずの箇所をはっきりと詠み表してしまっている点を批判していることを全体で交流しながら理解を深めた。



◇ 研究授業の成果と今後の課題

【成果】

- ・交流の前に本文理解を徹底できていたため、導入から展開にかけてスムーズに行うことができた。
- ・該当箇所をICTで視覚的に強調することによって、生徒自身が整理しながら考察することができた。

【今後の課題】

- ・交流時にさまざまな意見が出たことは良かったが、本文中からは読み取れない主観的な内容も多かった。事実に基づく意見をもたせるために、習熟度別だからこそできる授業展開を心掛けていきたい。

数学科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：令和6年 6月 14日（金） 5限

対 象：3年 234組（30名）

担 当：小川 雄士

科 目：数学Ⅲ

単 元：数学Ⅲ 第4章 微分法の応用

学習活動：

- ・増減表と極限をもとに関数のグラフをかく。
- ・漸近線を意識して、関数のグラフをかく。
- ・周りの生徒と議論することで、疑問点の解消や考え方を深める。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

【成 果】

- ・教科書を利用しながら例題を解くことで、新しい内容の導入を行うことができた。
- ・極限を調べることで、漸近線の存在に気付き、正確なグラフをかくことができた。
- ・周りの生徒との議論を通して、自分の解答や考え方に自信をもつことができた。

【課 題】

・授業のペースが速く、理解できていないまま次へ進んでしまった。内容を絞り、確実な理解につなげたい。



英語科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：2025年2月13日（木）4限

対 象：2年3組（40名）

担 当：杉山実奈

科 目：英語コミュニケーションⅡ

単 元：Lesson 9 Tackling Global Warming（数研出版）

学習活動：グループで「ジオエンジニアリング」に関して、模擬ディスカッションをロールプレイによって行う。

- ① 「ジオエンジニアリング」に関する大学入試問題を読んで、問題を解く。
- ② 模擬ディスカッションを行うための準備をする。
- ③ グループで模擬ディスカッションをロールプレイによって行う。
- ④ 二人のスペシャルゲストの意見について考える。
- ⑤ 今日の授業を受けて、「ジオエンジニアリング」について賛成か反対か自分の意見をまとめる。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

本時のねらいはグループで模擬ディスカッションを行うことにより、登場人物の観点から「ジオエンジニアリング」について理解し、最終的に自分は「ジオエンジニアリング」についてどう思うかを自分のことばで語る、意見が言えることでした。

模擬ディスカッションでは、レッスンで学んだ語彙や表現を使って、自分の意見を論理的に説明し、相手の意見に適切に応答することができました。役になりきって、ユーモアを交えながら話す姿が見られ、グループメンバーが発言しやすいように相槌を打ったり、質問を投げかけたりすることで、会話が弾み、自然な流れでディスカッションが進んだのが良かったです。

「ジオエンジニアリング」は難しい内容でしたが、最終的に生徒は自分のことばで意見をまとめることができました。

生徒たちの英語学習に対する前向きな姿勢を大切にして、自ら考え、意見を交換し、問題解決の能力を高める機会を提供しつつ、英語の学力をきちんとつける授業を展開していきたいと思えます。



理科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

観点別評価につながる指導と評価の一体化を目指し、探究の過程を取り入れた実験に関する研究授業を行った。令和4年度から始めた実践であり、今年で3年目となる。

日 時：2024年10月29日（火）3限

対 象：1年6組（40名）

担 当：石田 朗

科 目：物理基礎

単 元：仕事と力学的エネルギー

学習活動：・球を転がしたあとの速さが、どのような実験条件によって変化するかを仮定し、実験を組み立てる。

・滑らかな斜面を転がる運動について、力学的エネルギーが保存されていることを、測定結果から示す。

・結果がまとまらないとき、その改善案を協議し、提案する。

◇ 授業実践の成果と今後の課題

授業実践の成果

3年間この授業形態を経験してきた3年次生はもとより、今回研究授業を実践した1年次生についても、プリント配付後すぐに共同実験者氏名を記入し、実験に関する事項の項目について正しい知識と相応しい表現になるよう共同実験者間で交流するようになった。仮説設定についても、根拠を元に定性的な表現で記入する生徒が増えてきた。

また、デジタルな測定値は全て、アナログな測定は最小目盛りの10分の1までを意識して記録する技能を身に付け、平均値や算出値について有効数字を意識して記録できるようになった。グラフについては、全員が全てのグラフを限られた時間で全て書き上げることは困難なため、分担して実践する場合もあった。

誤差を含んだ多量の実験データをクラスで共有し、外れ値を検討、除去することで実験条件と測定値への影響が議論しやすくなり、学習内容と現象との対応が明確化された。

今後の課題

丁寧な実践を意識すると、実験1時間、考察やまとめ1時間の2時間分が使われる。標準単位数としては1週間分の授業である。特に物理基礎においては学習内容が比較的多く、実験の数を増やすと座学的な授業による基本知識の定着がおろそかになりかねない。

実験レポートの全ての項目を採点するか、それとも実験毎に狙いを絞って採点するかが検討の余地がある。授業者としては、生徒が以前の実験の経験を踏まえて、どのように今回の実験やレポート作成に取り組んだかは生徒次第であり、点検する項目を限定すると、生徒の変容や成長が見られないと考え、レポートについては全てを点検するようにしている。逆に変容が薄まって評価されることも考えられるため、どうあるべきかが難しい。

地歴公民科の授業改善報告

「江戸幕府の政策転換と特定身分への差別強化」～人権教育の観点に立った学習指導案～

地歴・公民科 林 直樹

日時：令和6年11月15日(金)2・3限 ※2限:2年3組、3限:2年1・2組 同一内容の授業

対象：2年日本史選択者 教科・科目名：地歴科・日本史探究

テーマ：「幕政の転換と特定身分への差別強化」

※教科書記載の「生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化」「身分と社会」「幕政の安定」をもとに設定。

テーマ目標：

- (1) 社会の下位身分とされた人々(かわた・非人)の暮らし、社会的位置付けを理解する。
- (2) 平和と秩序の確立をめざした幕府の諸政策とその影響を理解する。
- (3) 幕府政治と特定身分の人々への差別強化がどのように関わっているのか。史実に即して理解する。
- (4) 上記(1)～(3)を踏まえ、歴史的事象の多面性を理解する。
- (5) 上記(1)～(4)を踏まえ、今日的課題と歴史学習の関わりを考える契機のひとつとする。

本時の到達目標：

- ・上記(1)(2)は、前回授業までに終了予定。本時では(1)(2)を踏まえ、(3)(4)を取り扱う。
- ・グループでの情報共有と討論、各グループ代表によるクラス内発表及び情報共有までをめざす。

授業の進め方

- ・反転授業を基本とする。教科書の精読、設問への解答(文章形式)を済ませた上で授業に臨む。
- ・グループ活動、及びクラス内での情報共有。

	学習内容	学習活動	留意点 ○教員の活動 ●評価項目
導入 (5分)	既習事項の復習	各班で(1)(2)の内容を確認する。	○巡回により活動を促す。 ●学びの成果の班内共有。(思・判・表)
展開1 (20分)	○グループで意見を共有する。 ○グループ内で出された意見をまとめて全体で発表する。発表を聞く。発表内容をプリントに記入する。	○幕政の転換の意図とその影響を理解する。 ○幕政の転換が、特定身分に対する差別強化とどのように関わっているか理解する。 ○話し合いや発表の過程で、歴史理解の論拠となる史実を丁寧に明らかにする。	○巡回により活動を促す。 ○司会進行。ホワイトボードでの意見集約。 ○意見に対する補足・整理。 ●各自の学びの班内共有、班内での意見集約、クラス内での共有。(思・判・表)
展開2 (20分)	○グループで意見を出し合う。 ○グループ内で出された意見をまとめて全体で発表する。発表を聞く。発表内容をプリントに記入する。	○幕府の意図とその影響を多面的に考察する。 ○考察の過程で浮かび上がった歴史的事象(平和・秩序の確立と差別強化)について、班内・クラス内で意見交流する。 ○本時までの学びを今日的課題と結び付けて考えてみる。	○巡回により活動を促す。 ○司会進行。ホワイトボードでの意見集約。 ○意見に対する補足・整理。 ●各自の学びの班内共有、班内での意見集約、クラス内での共有。(思・判・表)
まとめ (5分)	○本時のまとめ	○教員による総括を含め、本時の振り返りをノートに記録する。	○活動の総括

授業展開と今後の展望

今回の授業では、「近世社会の文治政策と差別意識形成」をテーマに取り上げた。2年次生2クラス

で同一内容の授業を同日行い、どちらの授業も職員に公開した。他教科を含め、複数の同僚に授業を参観していただき、有益な助言をいただいた。

昭和50～60年代の日本史教科書では、いわゆる「分裂支配」による被差別身分の形成が説かれていたが、今般、山川・実教・清水書院・東京書籍、いずれも教科書でも、そのような学説は紹介されていない。現状、この問題に関しては、山川教科書がもっとも詳しく、分裂支配説に代わって、文治主義の確立による「穢れ観の浸透」が差別を強めたとの説明がなされている。

山川教科書では、町触(まちぶれ)として実際に発令された生類憐みの令(貞享4年・元禄3年)を例に挙げ、犬や牛馬のみならず、捨て子や病人を大切にせよとの法令が出されていたことが説明されている。さらには、コラムの中で、徳川綱吉の治世に発令された服忌令を取り上げ、生類憐みの令との関連性を探らせる課題が提示されている。

あわせて、山川教科書は、本文や注の中で、太平の世を持続させるために、血や死、殺生を穢れととらえて忌み嫌う風潮が意図的に作り出されたこと、そのような風潮の中で、特定の職種をなりわいとする人々への差別が強まったことを強調している。実際の史料を吟味すれば、分裂支配ではなく、文治政策の推進と穢れ観の浸透こそが身分差別強化の原因となったと考えられる。

教科書執筆者の意図は、「史料をしっかり読んで、自分の頭で考え表現すること」を要求しているのであろうが、注釈付きとはいえ、教科書本文と合わせて、複数の史料を読みこなすのは、なかなか骨が折れる作業である。指導要領の大幅改定に伴い、日本史探究の教科書では、史料が、より重視されるようになった。入試問題や模擬試験でも、史料問題の比重が増え、なじみ深い史料ばかりではなく、初見史料も多く出題されるようになった。

ただ、古文とは言え、当時の人々の思考や感情、時には肉声を日本語でとらえ、自らの思考に組み込んでいく過程は、まさに日本史の授業ならではの醍醐味であると考えているが、実際の授業の様子、生徒の反応はどうであったか。以下に生徒の声や反応を拾ってみる。

- ・様々な史料を根拠に、殺生や暴力が戒められ血や死を穢れとみなす考えが浸透したことに言及する見解が、多くの生徒から出された。
- ・葬儀だけではなく、出産や流産までもが穢れとされ、「自宅謹慎」の対象となっていたことに、多くの生徒が驚き、中には憤慨する声も聞かれた。
- ・力で押さえつける政治から、法や学問、教育、制度で社会を律していく時代になったことに着目した生徒もいたし、赤穂事件に対する綱吉の苛烈ともいえる行動を穢れ観と結び付けた生徒もいた。
- ・一方、幕藩体制が動揺を迎える江戸中期以降、分裂支配が行われた可能性は否定できないのではないとの意見もあった。

討論・発表ともに、盛り上がりを見せた授業展開だったが、多くの学びがあったとしても、史料をもとに考えるのは大変な作業である。生徒の中には、「多数の史料、あるいは図やグラフを読み解きながら思考するぐらいなら、教員による解説中心の方がわかりやすい」との意見もあった。それに対し、「史料読み解きの方が面白いし、仲間の指摘・見解になるほどと思うことがある」との意見が何人かの生徒から返ってきた。

このような考え方の差は、必ずしも、日本史の得意・不得意、テストの得点率とは結びついていない。知識重視のテスト問題で点を取ることが苦手でも、読み解きやディスカッションを得意とする生徒もいるし、その逆もいる。

多様な個性に配慮しつつ、今後も、探究的な学びを根底に置いた授業実践を重ねていきたい。

保健体育科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：2024年7月11日（木）1限及び1月30日（木）5限

対 象：1年2組（40名）

担 当：村井 里佳子

科 目：保健

単 元：心肺蘇生法及び日常的な応急手当

学習活動：新学習指導要領において、保健学習の单元の中に、「心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う」という内容が加わった。消防署員による講習を受講した後、講習の復習及び日常的な応急手当について学び、様々な症状の応急手当の手順や方法の習得を目標にした。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

○講習前の授業において、ペアやグループなどで主体的・対話的に参加しながら学習することの重要性について、触れた。

<講習の様子>

○心肺蘇生法・AEDの使用法について



- ・復習時にプロジェクターに穴埋め問題を映し、生徒同士で話し合いながら答えさせるようにした。
- ・様々なけがに応じた応急手当
(突き指、捻挫、打撲、切り傷、骨折等)

- ・出血における止血法やRISEによる応急手当
- ・熱中症の応急手当→WBGT計の使用法（実際に試してみる）

◇ 研究授業の成果と今後の課題

今年度もけがや事故の危険が増加しやすい夏休み前に消防署員の協力のもと、練習用人形を使用して救命救急法の講習をおこなった。単元計画では、後期の内容ではあるが、安全な社会形成の一連の流れを崩さず指導するために、1月に復習をしてその他の応急手当てにつなげた。生徒は、期間が空いたが内容について比較的覚えており、スムーズに進めることができた。

学校のみならず家庭や出かけた先においても、けがや病気は誰にでも起こり得る事象であることから、多くの人が応急手当に関する知識や技能をもっている社会であれば、自分だけでなく多くの人命をも守り得る。この単元においては、実際に起こり得る状況を想定した内容を立案し、更に主体的に行動する姿勢を育みたい。

音楽科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：2025年 2月 10日（月）～14日（金） の全クラスで実施

担 当：佐々木詠衣子

科 目：音楽 I

単 元：諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう

学習活動：イタリア歌曲（'O sole mio、Caro mio ben）、ドイツ歌曲（Heidenröslein）の曲にふさわしい発声、表現に必要な技能、言葉の発音に留意して歌い、イメージをもって音楽を形作っている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

毎年行う単元ですが、今年度は3年生の森奏大朗君が快く歌曲の披露を引き受けてくれました。受験に必要な歌曲を含め、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲、4曲を披露してくれましたが、知性と感性の両方を働かせて表現する森君の演奏にくぎ付けになり、彼の表現を受け取ってくれている様子がありました。それは音楽的な感受が深まった瞬間だったと思います。さらに次年度はこうした機会を自身の表現に生かし、歌唱表現の追及につながるよう、鑑賞の提示をしていきたいと思っています。



シューマンの「ミルテの花」の後奏。アヴェマリアのモチーフが登場します。宗教的な愛にまで昇華させた彼の妻に対する愛の深さが感じられる、といった森君の解説も。

〈生徒の感想より〉

○歌によって雰囲気がガラッと変わって歌が始まるごとに息をのむほど圧倒された。

私は「初恋」がとても好きだと思った。優しさや温かさ、なつかしさのようなものを含んだような、どうしようもない気持ちを感じた。すごくきれいに教室中に響く声で素敵だった。

○優しい声と力強い声の切り替えや表現からも本当に詩に込められている思いが伝わってくる歌声だった。（多数）

○先輩の歌を聴いたとき、もちろん圧巻というような感覚があったがそれ以上に包み込まれるようなどこか安心感のある美しい歌声でした。日本歌曲とドイツ、イタリアの曲の違いを耳で感じる貴重な体験になりました。

○ドイツ歌曲は祝福するように気持ちのこもった声で、表情にもそれが表れていて迫力があった。

○強弱や抑揚で曲の雰囲気を表現し、表情も豊かで感動した。○あたたかい歌だった。

家庭科の授業改善報告 です。

◇ 研究授業

日 時：2024年7月11日（木）1限
 対 象：2年7組（39名）
 担 当：渡辺夕子
 科 目：家庭基礎
 単 元：8章消費・環境 消費社会を生きる

学習活動：「ライフデザインをもとに、生涯を見通した経済の管理や計画について考える」
 高校生の多くは、生活設計や家計管理にかかわる機会が少なく、人生にはトータルで大きな資金が必要であることを実感として理解するのが難しい状況にある。そこで「ウェブ版人生設計ゲーム」を行い、思い描くライフデザインをたどりながら、ライフイベントとお金が連動していることを疑似体験できるようにした。自分の価値観をもとにした「生活の質」とライフイベントにかかる金額を結び付け、ライフステージ全体を見通した生活設計やマネープランの必要性について考えさせた。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

このゲームを行うことでライフイベントや生活設計に応じて、まとまったお金が必要になること、特に教育費用については、自分事として実感する生徒が多かった。また、将来、親となり子育てをする立場になった時、どんな親でありたいかについて考え記述する生徒もいた。

資産残高が多くなるようライフイベントを選択する生徒もいるが、それが自身の人生にとって必ずしも良い結果となるわけではない。お金がすべてではなく、自分の望むライフデザインに合わせてお金と向き合っていくことが大切であると補足した。また、ライフイベントは一人ひとり選択の時期や内容が異なることを気づかせ、誰かと比較するのではなく自分の人生は自分で設計する（切り拓く）ことが大切であり、それが自分の人生を歩むこと＝経済的な自立につながることを皆で確認した。

課題として、生徒が疑似体験した教育費用・老後の資金、働き方（ワークライフバランス、男女共同参画、長時間労働、性別役割分業）は、少子高齢化やジェンダーギャップなど様々な社会問題の背景にあることから、今後も「自分・家族」「子ども」「高齢者」など他分野と関連させ、学習のつながりをもたせていきたい。

【レポートの記述内容】

お金が余ってしまったのでもう少しお金を有効に使って自分の人生を充実させたい。子どもは2人ほしいと考えていたが、子どもの教育費に結構お金がかかる。人生は何があるか予想がつかない。災害や病気をすることもかもしれない。パートナーと共働きをして計画的に貯蓄し、備えのために保険にはいることも考えたい。そして自分の人生を楽しくゆとりのあるものにしたい。

user41	5,679万円	親からの収入人生		2限	2024/09/02 15:11:28	19495
user44	-6,295万円	子供への支出		2限	2024/09/02 15:14:29	19502
user43	-27,864万円	子供への支出		2限	2024/09/02 15:09:19	19493
user45	-597万円	子供への支出	思ったより人生設計は新しいものだと感じました。もう少し身元も期間のこともです。	1限	2024/09/02 15:10:27	19473
user51	37,498万円	親からの収入人生	心配感で向かってると思います。	1限	2024/09/02 15:08:38	19472
user53	4,820万円	親からの収入人生		1限	2024/09/02 15:01:42	19463
user54	7,655万円	親からの収入人生		2限	2024/09/02 15:10:31	19492
user42	3,889万円	親からの収入人生	学費的な人生も考えていない	1限	2024/09/02 15:10:24	19441
user46	14,779万円	親からの収入人生	もう少し期間のお金も使いたいかなと思います。家でもいざという時に多分必要な支出は公費で何とか大丈夫かなと身元を気にしてはいたと思います。	1限	2024/09/02 15:07:45	19437
user47	1,630万円	親からの収入人生	今後の人生の設計も考える方向になっていへん良かった。	1限	2024/09/02 15:08:09	19440
user48	24,555万円	親からの収入人生	既婚で働き収入増の心配がなかったら、子供がよほどに必要かなと疑問はなかったかなと思います。	1限	2024/09/04 09:37:39	19596
user49	16,209万円	親からの収入人生	毎月買付の件はよくないかなと悩まなかったの、1限で貯蓄もできてよかったです。	1限	2024/09/04 09:33:12	19619
user50	4,495万円	親からの収入人生	めっちゃずしからんけど結婚生活の生活がもろくないかなと悩まなかったかなと思います。	1限	2024/09/04 09:24:29	19586
user40	170万円	親からの収入人生		1限	2024/09/04 09:36:51	19573
user41	2,300万円	親からの収入人生		1限	2024/09/04 09:31:11	19569
user43	-620万円	子供への支出	高校で働くための新しい仕事についてだけでなく健康の維持も大事かなと気がついたかなと思います。	1限	2024/09/04 09:32:24	19622
user44	11,667万円	親からの収入人生		1限	2024/09/04 09:32:34	19582
user45	13,489万円	親からの収入人生	もう少し健康にお金を使いたいと思います。	1限	2024/09/04 09:35:55	19584
user47	1,519万円	親からの収入人生		1限	2024/09/04 09:31:59	19564
user48	-8,870万円	子供への支出	若い頃にお金を貯めておけば老後の資金が足りなくなっていたので、若い時からたくさんお金を貯めることが大事かな	1限	2024/09/04 09:39:38	19587

人生設計ゲーム 友達の結果